

## 令和2年度 新たな課題に対応した人権教育研究推進校としての取組

### 1 研究当初の生徒の状況と課題

多可町中区は豊かな自然にあふれた町である。本校の校歌には「天に秀ずる妙見」とあり、妙見富士と名高い妙見山をはじめとする秀麗な山々に四方を囲まれている。また、「郷をうるおす杉原」ともあり、清流杉原川は最高峰の酒米山田錦を産出する田を潤す。村々では、四季折々の集落行事が数多く催され、たくさん子どもたちが参加する。子どもの成長を学校だけにゆだねるのではなく、地域でも見守ってほしいという温かさがある。

このような校区にある本校は、全校生徒 208 名という小規模校である。授業時の教室は穏やかな空気に包まれている。放課後は部活動に打ち込む生徒の声や楽器の音色が校庭に響き渡る。擦れ違う教職員や来校者には気持ちのよいあいさつができる。

しかし、当初、本校では生徒指導において、問題行動が増加傾向にあることが課題であった。ここには、問題を起こす生徒だけではなく、その場面を目にしながら、ともすれば傍観者になったり、その場の雰囲気と同調したりしている生徒の課題も考えられた。

このような状況を踏まえると、自己の大切さとともに他者の大切さも認めるという当たり前の人権感覚を確実に育んでいくことを通じて、問題行動の未然防止に努めることが必要であると考え、人権教育の取組に力を入れていくことにした。

そこで、授業における対話に着目し、すべての生徒の思い・考えが受容されるような話し合い活動・意見交流等を工夫していくことで、一人ひとりが尊重され、誰もが伸び伸びと安心して学ぶことができるような雰囲気づくりをめざした。そして、自他を思いやる心情を育んでいきたいと考えた。

### 2 研究テーマ

「人権を尊重し、自他のよさを認めながら、ともに伸びていく生徒の育成」

### 3 ねらい

自分の大切さとともに他者の大切さを認めるという人権感覚を確実に育んでいくことを通じて、すべての生徒が生き生きと学校生活を送り、問題行動が未然に防止されるような学級・学校づくりをめざしていく。

### 4 具体的な取組

#### (1) 研究の概要（様式1）

#### (2) 各領域における取組

##### ア 教科における取組

##### ・ 取組の概要（様式2）

##### ・ 指導案

##### ・ 資料、生徒の感想

- イ 道徳における取組
  - ・ 取組の概要（様式２）      ・ 指導案      ・ 資料、生徒の感想
- ウ 特別活動における取組
  - ・ 取組の概要（様式２）      ・ 指導案      ・ アンケート集計結果
- エ 総合的な学習の時間における取組
  - ・ 取組の概要（様式２）      ・ 指導案

## 5 成果と課題

### （１）成果

成果としては、問題行動の指導件数が大幅に減少傾向に転じたことである。また、今年度実施した「道徳アンケート」および「学校評価」の結果においても変容が見られた。そのいくつかを以下に示す。

- ①「道徳アンケート」（生徒）の「思いやりの心をもって人と接しようと思う。」という項目について、「そう思う、だいたいそう思う」と答えた生徒が92%（昨年度90%）に増加した。
- ②「学校評価」（生徒、５段階評価）の「自分のことや他人のことを大切にしている。」という項目について、4.43（昨年度4.29）に上昇した。
- ③「学校評価」（保護者、５段階評価）の「学校は『いじめを許さない』という姿勢で早期発見に努めるとともに、保護者と連携をとりながら適切に指導を行っている。」という項目について、4.02（昨年度3.85）に上昇した。

### （２）課題

課題としては、十分な授業時数の確保の難しさが挙げられる。例えば、「心の健康教育」として、町の臨床心理士の指導・助言のもとでストレスマネジメント、認知変容、アンガーマネジメント、傾聴、アサーティブコミュニケーション等について、系統的かつ段階的に授業を進めていく予定であったが、他の人権課題についての授業も実践していく中で、十分な時数が確保できなかった。今後も、人権教育推進委員会を中心に、道徳科だけでなく、総合的な学習や特別活動、各教科等を横断した人権教育の教育課程を計画し、実践していきたい。

また、いまだ問題行動はゼロにはなっておらず、本校がすべての生徒にとって安心して学び、生活できる環境であると言い難い。よって、来年度以降も自己の大切さとともに他者の大切さも認めるという人権感覚を確実に育んでいくことを通じて、問題行動の未然防止に努めていきたい。

## 実践報告資料

研究テーマ『人権を尊重し、自他のよさを認めながら、ともに伸びていく生徒の育成』

研究内容【(1)、(2)、(3)、(4)】

学校名（多可町立中町中学校）

## ア 人権教育としてのねらい

自分の大切さとともに他者の大切さを認めるという人権感覚を確実に育んでいくことを通じて、すべての生徒が生き生きと学校生活を送り、問題行動が未然に防止されるような学級・学校づくりをめざしていく。

## イ 研究の概要

対話的な授業を展開していく中で、自分と異なる意見を受容することで他者への理解が深まり他者を尊重することができたり、一人ひとりの考え・思いが大切にされることでそれぞれの生徒の自己有用感が育まれたりするような取組を実践する。

領域	特別活動	総合的な学習の時間	特別の教科 道徳	教科
指導者	3 学年担当教員	1 学年担当教員	推進教員	1 学年国語科担当
実施日	12 月 3 日	12 月 17 日、18 日	6 月 25 日	9 月 28 日
取組名	多様な性ってなんだろう	だれもが行きたくなる学校	生命の尊厳	戦争で奪われる人権
目 標	性の多様性について正しい理解を深め、性的マイノリティをめぐる人権問題を認識するとともに、多様な性を受け入れ、互いの違いを尊重しあう態度を身に付ける。	一人ひとりの人権が大切にされ、だれもが安心して学校生活を送れるようにするために、互いに協力しながらよりよい人間関係を築くことができる学級・学校づくりに、主体的に関わっていこうという態度を育てる。	美しい自然を目にしたことをきっかけに、自らの障害を受け入れ、強く生きていくことを決心した主人公を通して、自分の弱さと向き合い、克服し、人間として生きることへの希望や喜びを見いだそうとする意欲を育てる。	登場人物が戦争という状況で抱いた、どうにもならない「悲しみ」を読み取ることで、人間が生まれながらにもつ当然の権利を理不尽に奪い去る戦争を二度と起こしてはいけないという人権意識を育てる。
資料名	中学校向け「Ally Teacher's Tool Kit (アライ先生キット)」	「グループ・ディスカッションをする」『国語 1』（光村図書）	「ひまわり」『自分をのぼす』（廣済堂あかつき）	「大人になれなかった弟たちに……」『国語 1』（光村図書）
指導内容や指導方法の工夫等	性的マイノリティを自認する人のインタビュー動画を視聴することで、当事者の生きづらさやカミングアウトに至るまでの葛藤、周囲の人々の支え等に対する理解を促す。そして、視聴後に意見交流を行うことで、多様な性を受容し、尊重しようという思いを学級内で共有させていく。	不登校生が多いという自校の実態を踏まえ、彼らが学校に来やすくなるにはどうすればよいかを考えさせる。そのための手段として、国語科で学んだグループ・ディスカッションを活用し、多様な意見を交流しながら、一人ひとりが大切にされる学校のあり方について、考えを深めさせていく。	中心発問で、「麻衣さん」の死を望む思いが、生きる希望へと変わった理由について考えさせる。まず、小グループで意見交流をし、考えを広げさせる。その後、学級内の対話へと展開していく。ここで、「麻衣さん」が何によって、どう感じ、どう変わったのかをより具体的に想像させるために、問い返しを大切にする。	本教材の出典は絵本である。授業では、戦争によって引き起こされた登場人物のやるせない「悲しみ」をより強く想像させるために、その場面の人物が涙を流している表情を描いた挿絵を提示する。絵と文章の二種類の資料の読み取りから、戦争の非人間性や理不尽さ等に迫らせていく。

実施日：9月28日（6校時）	
領 域：教科（国語科）	
取組名：戦争で奪われる人権（資料「大人になれなかった弟たちに……」『国語1』（光村図書））	
対 象：1年生	実施場所：教室
<p>ア ねらい</p> <p>登場人物が戦争という状況で抱いた、どうにもならない「悲しみ」を読み取ることで、人間が生まれながらもつ当然の権利を理不尽に奪い去る戦争を二度と起こしてはいけないという人権意識を育てる。</p>	
<p>イ 指導内容（指導略案）や取組の概要</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 本文を読む。</li> <li>2 「僕」の「悲しみ」を読み取る。 <ol style="list-style-type: none"> <li>① 「僕」の「悲しみ」がわかる表現を抜き出す。</li> <li>② 弟のミルクを盗み飲みしてしまったときの「僕」の気持ちを読み取る。</li> </ol> </li> <li>3 「母」の「悲しみ」を読み取る。 <ol style="list-style-type: none"> <li>① 「母」の「悲しみ」がわかる表現を抜き出す。</li> <li>② 「母」の「顔」の表現から、「母」の気持ちを読み取る。</li> </ol> </li> <li>4 戦争がいかに特殊な状況であるかを考える。 <ol style="list-style-type: none"> <li>① 平和な世の中だったらしないであろう「僕」、「母」、「しんせきの人」の行動を確認する。</li> <li>② 本時の学習の感想をまとめる。</li> </ol> </li> </ol>	
ウ 連携先：家庭	
<p>エ 連携にむけての取組</p> <p>学校HPや学年通信等で、学習内容や生徒の感想等を発信する。また、作成した指導案については、授業の成果・課題とともに町内の各中学校に発信し、情報の共有を図る。</p>	
<p>オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本授業は、第1学年人権教育年間計画に「戦争と人権」というテーマで位置づけられており、この学習内容は、2学期中旬に行う校内人権弁論大会や道徳教材「国際協力ってどういうこと？」へと系統的につなげていく。</li> <li>・ 2学期末に生徒に実施する「道徳アンケート」や「学校評価アンケート」の、生命の尊厳等に関する人権意識が育まれているかという質問項目について、その結果を分析し、この学習についての客観的な評価を行う。</li> </ul>	
<p>カ 評価の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業中の発言</li> <li>・ 感想文</li> </ul>	
<p>キ 成果</p> <p>戦争によって引き起こされた「僕」と「母」のどうにもならない「悲しみ」をより強く想像させるために、その場面の登場人物が涙を流している表情を描いた絵本の挿絵を提示したことで、人物の心情をより深く想像させることができた。生徒の感想には、戦争のもつ理不尽さや平和の尊さへの気付き、戦争への怒り等が表れていた。</p>	
<p>ク 課題</p> <p>「母」と「僕」が親戚から疎開の願いを断られた場面について、その親戚もまた戦争の中では被害者であり、心の余裕を奪われたゆえに加害者になってしまっているということにまで、十分に生徒の考えを深めさせることができなかった。戦争というものが、否応なくすべての人々から人間性を奪い去っていたことに気付かせ、そのような状況に対して強い憤りを抱くことができるように、今後の学習展開を工夫していきたい。</p>	

## 第1学年 国語科 学習指導案

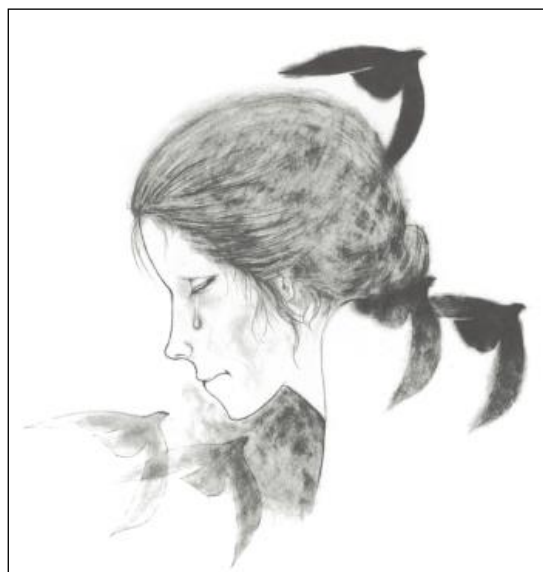
- |   |         |  |
|---|---------|--|
| 1 | 主 題     | 戦争によって奪われる人権   |
| 2 | ね ら い   | 登場人物が戦争という状況において抱いていた、どうにもならない「悲しみ」を読み取ることで、人間が生まれながらにしてつ当然の権利を理不尽に奪い去る戦争を二度と起こしてはいけないという人権意識を育てる。 |
| 3 | 人権教育の内容 | 生命の尊厳についての学習 2－（１）－ア   |
| 4 | 展 開     |  |

学習活動	主な発問と予想される反応	指導上の留意点
1 本文を読む。	○ 「僕」や「母」の抱く「悲しみ」に注目しながら読んでいこう。	○ ペアで音読させる。その後、「僕」や「母」の「悲しみ」が描かれているところに線を引かせる。
2 「僕」の「悲しみ」を読み取る。 ① 「僕」の「悲しみ」がわかる表現を抜き出す。 ② 弟のミルクを盗み飲みしてしまったときの「僕」の気持ちをまとめる。	○ 「僕」の「悲しみ」が読み取れる表現を抜き出そう。 ・ 「そのころ、甘いものはぜんぜんなかったのです。」 ・ 「僕はかくれて、ヒロユキの大切なミルクを盗み飲みしてしまいました。」 ○ ヒロユキのミルクを盗み飲みしたとき、「僕」はどんな気持ちだったのだろう。 ・ 悪いこととわかっていながら、我慢できない自分が情けなく、つらい。 ・ 罪悪感。	○ 「僕」が「ヒロユキ」のミルクを盗み飲みしてしまった理由を考えさせる。その中で、戦時中の食糧不足や「僕」がまだ小学四年生であり幼かったこと等を想像させる。 ○ 絵本「おとなになれなかった弟たちに……」の挿絵を示し、「僕」が涙を流しながらミルクを飲む表情から、「僕」の葛藤や悲しみを想像させる。
3 「母」の「悲しみ」を読み取る。 ① 「母」の「悲しみ」がわかる表現を抜き出す。  ② 「母」の「顔」の表現から、心情を読み取る。	○ 「母」の「悲しみ」が読み取れる表現を抜き出そう。 ・ 「母は自分が食べないので、お乳が出なくなりました。」 ・ 「母は、よく言いました。～ヒロユキはそれしか食べられないのだからと。」 ・ 「しんせきの人は、～うちに食べ物は無いと言いました。」 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">「母」の「強い顔」、「悲しい顔」、「美しい顔」には、どんな気持ちが表れているのだろう。</div> ・ 強い顔＝子どもを必死で守ろうという強い決意。 ・ 悲しい顔＝親戚に誤解された悲しみ。	○ 食べ物を「僕」に食べさせたいが、自分が食べなければ「ヒロユキ」にあげるお乳が出なくなるという「母」の辛さに気付かせる。 ○ 「しんせきの人」を変えたのは、戦争という特殊な状況であることに気付かせる。 ○ 悲しみにたえ強い決意を見せた「母」の表情が「美しい顔」と見えたことを押さえる。 ○ 教科書の挿絵を示し、「母」の気持ちを想像させる。
4 戦争がいかに特殊な状況であるかを考える。 ① 平和な世の中だったらしない「僕」、「母」、「しんせきの人」の行動を確認する。 ② 本時の学習の感想をまとめる。	○ 現在の平和な世の中ではしないであろう「僕」、「母」、「しんせきの人」の行動を振り返ろう。 ○ 「僕」、「母」、「しんせきの人」が、このような行動を取らざるを得なかったのはなぜだろう。 ・ 戦争という状況が人の心から余裕を奪ってしまったから。 ○ 本時の授業で感じたこと、考えたことをまとめよう。	○ 「僕」、「母」、「しんせきの人」の理不尽であったり、非道徳的であったりする行動の原因が個人の問題にあるのではなく、戦争から引き起こされた生活の貧しさ、苦しみにあり、それはどうしようもなかったことであることに気付かせる。

- 戦争によって引き起こされた登場人物の「悲しみ」をより深く想像させるために、以下のような絵を提示した。



『おとなになれなかった弟たちに……』(偕成社) より



『国語 1』(光村図書) より

(感想)

- 戦争は人々に悲しみと後悔を一生与え続けると思いました。作者の米倉さんもヒロユキが亡くなったから、ずっと後悔していたと思います。この話が実話だということと、戦争への憎さを忘れてはいけません。
- この話を読んで、弟思いの「僕」からしたら、ヒロユキが栄養失調で亡くなったとき、ミルクを飲んだことを後悔しているのだろうなと思うと、すごく悲しい気持ちになりました。そして、あらためて戦争のおそろしさがわかりました。
- 戦争は恐ろしいものだと思います。戦争は人々を悲しませるもので、憎しみと恐怖しか生まないと思いました。戦争で得られるものは何一つないと思いました。
- 私は、「母」の強さと優しさが印象に残りました。そして、戦争は人の心を貧しく変えてしまう恐ろしいものだと思います。私は「母」が家族を必死に守ろうとするところや、少しでも子どもに食べさせてあげようとするところに感動しました。
- 戦争というのは、人の心に一生残ることだと分かりました。「僕」の心の中にもあのころの苦しみ、悲しみ、後悔がいっぱいあって、それを一生抱え込んで生きるのはつらいことだと思います。
- 私は、戦争の話を聞いて、戦争は恐ろしいことだということを改めて知りました。戦争で命を落とした人がいっぱいいて、自分がもし生きたくないと思うことがあったとしても、戦争で亡くなった人の分までがんばって生きようと思いました。そして、戦争は絶対してはいけないと改めて思いました。

実施日：6月25日（3校時）	
領 域：特別の教科 道徳	
取組名：生命の尊厳（資料「ひまわり」（廣済堂あかつき『自分をのばす』））	
対 象：3年生	実施場所：教室
<p>ア ねらい</p> <p>美しい自然を目にしたことをきっかけに、自らの障害を受け入れ、強く生きていくことを決心した主人公を通して、自分の弱さと向き合い、克服し、人間として生きることへの希望や喜びを見いだそうとする意欲を育てる。</p>	
<p>イ 指導内容（指導略案）や取組の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 主人公（麻衣さん）の直筆の作文に目を通し、筆跡や内容からこの物語の主人公がどのような人物であるかを想像する。</li> <li>・ 身体に障害が残った麻衣さんの苦悩や絶望の気持ちを具体的に想像する。</li> <li>・ 死にたいとまで思っていた麻衣さんの考えが、生きようという気持ちに変わった理由を考える。</li> <li>・ 麻衣さんが書いた作文を読み、彼女が伝えようとしていることについて考える。</li> <li>・ 感想をまとめる。</li> </ul>	
ウ 連携先：町内の小中学校	
<p>エ 連携にむけての取組</p> <p>学区内の小中3校で「道徳が好きになる授業づくり」という共通の目標のもと、授業実践・研修を進めていく。また、本実践については、公開授業として町内各小中学校にもアナウンスをする。</p>	
<p>オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点</p> <p>「道徳が好きになる授業づくり」を研究主題として、研究仮説を「道徳科が好きになる授業づくりを工夫していくことで、生徒が、道徳の授業を通して、人間としての生き方について考えることに喜びを感じるようになるだろう」と設定し取組を進めていく。特に、対話に焦点化した授業づくりを行っていくことが、道徳の授業が好きな生徒を増やしていくことにつながるという点に着目して研究実践をしていく。具体的には、中心発問を一問多答のものに設定することで、多様な意見が出されるような工夫する。また、生徒相互の意見を受容的に聴かせる手立てを行うことで、自分の考えを安心して語り、他者のさまざまな考えにも耳を傾けられるような雰囲気を作る。さらに、指導案については、中心発問の場面の「予想される生徒の反応」を複数に分けて整理する。板書もそれと連動させ、マインドマップ等を活用しながら生徒の意見をグルーピングしてまとめることで、他者の意見と自分の意見との共通点や相違点が視覚的に明確になるようにする。これらの取組により、対話が一層促され、考えの深まりのある授業をめざしていく。</p>	
<p>カ 評価の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業中の発言</li> <li>・ 感想文</li> </ul>	
<p>キ 成果</p> <p>「麻衣さん」を襲った苦難と、そこから表れる弱い気持ちについては、同じ経験のない生徒でも、同年代ゆえに共感的に想像することができていた。また、「麻衣さん」直筆の作文を見たことで、彼女が必死に生きていることや生きることについて深い洞察をしていること、さらに、自らの生き方に誇りをもっていること等について、生徒の心にストレートに伝えることができた。</p>	
<p>ク 課題</p> <p>障害に対して個人が抱く否定的な感情を表出させてしまわないように、自分なら「麻衣さん」のような状況になるとどう思うかというような自我関与を安易に問わないように配慮した。しかし、それが一部の生徒の、障害が自分の日常から遠いものであるという捉え方につながってしまった。</p>	

第3学年 特別の教科 道徳 学習指導案

- 1 主 題 生命の尊厳
- 2 ね ら い 美しい自然を目にしたことをきっかけに、自らの障害を受け入れ、強く生きていくことを決心した主人公を通して、自分の弱さと向き合い、克服し、人間として生きることへの希望や喜びを見いだそうとする意欲を育てる。
- 3 人権教育の内容 生命の尊厳についての学習2－（１）－ア
- 4 展 開

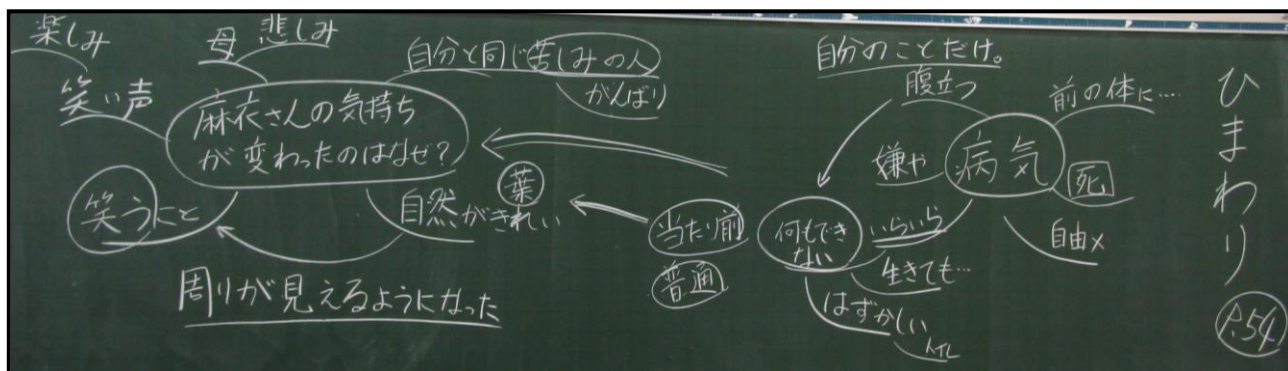
	学習活動（主な発問と予想される生徒の反応）	指導上の留意点				
導入	<p>○ この物語の主人公がどのような人であることを想像する。</p> <div>P 5 4 の作文を書いたのはどんな人だろう。</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 障害をもった人、心の優しい人、……</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 冒頭の作文を黙読させ、字体や内容から想像させる。</li></ul>				
展開	<p>○ 教材の範読を聞く。</p> <p>○ 麻衣さんの苦悩や絶望の気持ちを想像する。</p> <div>障害が残った麻衣さんは、どのような気持ちで過ごしていたのだろう。</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 自分の体が思うように動かないことへの腹立ち。</li><li>・ 母や医者への恨み。</li><li>・ 辛い目に遭うことへの憤り。</li><li>・ 死にたいけど自分で死ねないいらだち。</li></ul> <p>○ 麻衣さんの気持ちが変わった理由について考える。</p> <div>死にたいと思っていた麻衣さんの考えが変わったのは、どうしてなのだろう。</div> <table><tr><td><ul style="list-style-type: none"><li>・ 子ども患者の笑い声を聞いたから。</li></ul><div>↓</div><div>笑い声を聞いて何を感じた？</div><div><ul style="list-style-type: none"><li>・ 自分は笑うことを忘れていた。</li></ul><div>↓</div><div>笑うことでどう変わる？</div><ul style="list-style-type: none"><li>・ 前向きになれる。</li><li>・ 死にたい思いがばかばかしくなる。</li><li>・ 自分らしさ（＝明るさ）を取り戻すことができる。</li><li>・ 自分らしく生きることの大切さに気づくことができる。</li></ul><div>↓</div></div></td><td><ul style="list-style-type: none"><li>・ 自分が死ねば、母が独りぼっちになるから。</li></ul><div>↓</div><div>母はどう感じる？</div><div><ul style="list-style-type: none"><li>・ さみしい。</li><li>・ 悲しい。</li></ul><div>↓</div><div>母のことを思ったとき、何に気づいた？</div><ul style="list-style-type: none"><li>・ 自分はどんなときも母と一緒にがんばってきた。</li><li>・ 自分と母は支え合って生きてきた。</li><li>・ 母のためにも生きなければいけない。</li></ul><div>↓</div></div></td><td><ul style="list-style-type: none"><li>・ いろいろな人がリハビリを頑張っていたから。</li></ul><div>↓</div><div>例えばどんな人？</div><div><ul style="list-style-type: none"><li>・ 主人公より小さい子ども。</li><li>・ おじいさん。</li><li>・ 事故で片足を無くしたお兄さん。</li></ul><div>↓</div><div>どんな気持ちになった？</div><ul style="list-style-type: none"><li>・ 辛くてもリハビリを頑張る患者の姿に、勇気づけられた。</li><li>・ 自分も辛いことがあっても絶対にあきらめない。</li></ul><div>↓</div></div></td><td><ul style="list-style-type: none"><li>・ いちろうの葉がきらきらと光っていたのを見たから。</li><li>・ 真っ赤な葉が舞い降りてきたから。</li></ul><div>↓</div><div>どう感じた？</div><div><ul style="list-style-type: none"><li>・ きれいだ。</li><li>・ なぜ自分は死のうと思っていたのか。</li></ul><div>↓</div><div>なぜ、麻衣さんは美しい自然を見たことで、生きようと思ったのだろう。</div><ul style="list-style-type: none"><li>・ 障害になったことで、自然の美しさに気づけるようになったから。</li></ul><div>↓</div></div></td></tr></table> <div>麻衣さんは作文で、どのようなことを伝えようとしているのだろう。</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 病気になったことで、人の心の痛みや命の価値、自然のすばらしさ等に気づけた。また、いろいろな人からの沢山の愛情を感じることができた。</li><li>・ 自分は障害者としての生き方に誇りをもっている。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 子ども患者の笑い声を聞いたから。</li></ul> <div>↓</div> <div>笑い声を聞いて何を感じた？</div> <div><ul style="list-style-type: none"><li>・ 自分は笑うことを忘れていた。</li></ul><div>↓</div><div>笑うことでどう変わる？</div><ul style="list-style-type: none"><li>・ 前向きになれる。</li><li>・ 死にたい思いがばかばかしくなる。</li><li>・ 自分らしさ（＝明るさ）を取り戻すことができる。</li><li>・ 自分らしく生きることの大切さに気づくことができる。</li></ul><div>↓</div></div>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 自分が死ねば、母が独りぼっちになるから。</li></ul> <div>↓</div> <div>母はどう感じる？</div> <div><ul style="list-style-type: none"><li>・ さみしい。</li><li>・ 悲しい。</li></ul><div>↓</div><div>母のことを思ったとき、何に気づいた？</div><ul style="list-style-type: none"><li>・ 自分はどんなときも母と一緒にがんばってきた。</li><li>・ 自分と母は支え合って生きてきた。</li><li>・ 母のためにも生きなければいけない。</li></ul><div>↓</div></div>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ いろいろな人がリハビリを頑張っていたから。</li></ul> <div>↓</div> <div>例えばどんな人？</div> <div><ul style="list-style-type: none"><li>・ 主人公より小さい子ども。</li><li>・ おじいさん。</li><li>・ 事故で片足を無くしたお兄さん。</li></ul><div>↓</div><div>どんな気持ちになった？</div><ul style="list-style-type: none"><li>・ 辛くてもリハビリを頑張る患者の姿に、勇気づけられた。</li><li>・ 自分も辛いことがあっても絶対にあきらめない。</li></ul><div>↓</div></div>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ いちろうの葉がきらきらと光っていたのを見たから。</li><li>・ 真っ赤な葉が舞い降りてきたから。</li></ul> <div>↓</div> <div>どう感じた？</div> <div><ul style="list-style-type: none"><li>・ きれいだ。</li><li>・ なぜ自分は死のうと思っていたのか。</li></ul><div>↓</div><div>なぜ、麻衣さんは美しい自然を見たことで、生きようと思ったのだろう。</div><ul style="list-style-type: none"><li>・ 障害になったことで、自然の美しさに気づけるようになったから。</li></ul><div>↓</div></div>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ ゆっくりと読む。</li><li>・ 麻衣さんの死を望むほどの絶望、苦しみに共感させる。</li><li>・ お互いの考えは決して否定せず、受容的に聴くことを意識させる。</li><li>・ 学級内で意見交流をさせる。特に、麻衣さんの気持ちが変わるきっかけとなった美しい自然を目にした場面について、麻衣さんが障害になったことで、健常者のときには触れられなかった、新たな世界の価値に目が向いたことに気付かせる。</li><li>・ 麻衣さんが自分の生き方に誇りをもっていることに気付かせる。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 子ども患者の笑い声を聞いたから。</li></ul> <div>↓</div> <div>笑い声を聞いて何を感じた？</div> <div><ul style="list-style-type: none"><li>・ 自分は笑うことを忘れていた。</li></ul><div>↓</div><div>笑うことでどう変わる？</div><ul style="list-style-type: none"><li>・ 前向きになれる。</li><li>・ 死にたい思いがばかばかしくなる。</li><li>・ 自分らしさ（＝明るさ）を取り戻すことができる。</li><li>・ 自分らしく生きることの大切さに気づくことができる。</li></ul><div>↓</div></div>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 自分が死ねば、母が独りぼっちになるから。</li></ul> <div>↓</div> <div>母はどう感じる？</div> <div><ul style="list-style-type: none"><li>・ さみしい。</li><li>・ 悲しい。</li></ul><div>↓</div><div>母のことを思ったとき、何に気づいた？</div><ul style="list-style-type: none"><li>・ 自分はどんなときも母と一緒にがんばってきた。</li><li>・ 自分と母は支え合って生きてきた。</li><li>・ 母のためにも生きなければいけない。</li></ul><div>↓</div></div>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ いろいろな人がリハビリを頑張っていたから。</li></ul> <div>↓</div> <div>例えばどんな人？</div> <div><ul style="list-style-type: none"><li>・ 主人公より小さい子ども。</li><li>・ おじいさん。</li><li>・ 事故で片足を無くしたお兄さん。</li></ul><div>↓</div><div>どんな気持ちになった？</div><ul style="list-style-type: none"><li>・ 辛くてもリハビリを頑張る患者の姿に、勇気づけられた。</li><li>・ 自分も辛いことがあっても絶対にあきらめない。</li></ul><div>↓</div></div>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ いちろうの葉がきらきらと光っていたのを見たから。</li><li>・ 真っ赤な葉が舞い降りてきたから。</li></ul> <div>↓</div> <div>どう感じた？</div> <div><ul style="list-style-type: none"><li>・ きれいだ。</li><li>・ なぜ自分は死のうと思っていたのか。</li></ul><div>↓</div><div>なぜ、麻衣さんは美しい自然を見たことで、生きようと思ったのだろう。</div><ul style="list-style-type: none"><li>・ 障害になったことで、自然の美しさに気づけるようになったから。</li></ul><div>↓</div></div>			
終末	<p>○ 本時の感想をワークシートにまとめる。</p> <div>今日の授業を通して、感じたことや考えたことなど書こう。</div>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 書けない生徒にはヒアリングをする。</li></ul>				



(感想)

- 私は普段、嫌なことがあるとすぐに目の前のことから逃げ出したくなります。しかし、麻衣さんは、私よりもずっと大変でつらい思いをしているのに、前を向いて生きていこうとしていました。病気になって、世界はこんなにも美しいと知ったし、命の価値の大きさにも気付けることができたし、いつもポジティブですごいと思いました。
- 麻衣さんは病気になって当たり前前大切なことが分かったのだと思います。苦しい中だけど、麻衣さんの心を変えた人や自然はすごいなと改めて思いました。麻衣さんは強い心の持ち主だと思います。
- 今日の話で自分に自信がもてました。これだけつらい思いをいっぱいしたのに頑張れる人、本当にすごいと思いました。麻衣さんが書いた文章は、本当に心にぐさっときて、共感できました。本当に、本当に伝わったと思うのにすごいです。私ももっと頑張ろうと思いました。
- 僕はこの授業で、当たり前にあることが本当は当たり前ではないと思うことで、ちがう世界が見えてくると思いました。1つ1つの木も動くことはできないけど一生懸命生きていると考えるだけで、自分の今までの考えが間違っていたように思えました。
- 麻衣さんはたくさんの患者さんが前向きにがんばっている姿をみて、勇気をもらって、がんばろうという気持ちが生まれたと思う。また、母の気持ちを考えたり、看護師さんの支えがあったり、麻衣がいろいろな人とかわりあって生きていることに気がついたと思う。
- 私は今日の授業で、改めて自分が今当たり前のように生活できていることは、当たり前ではないのだなと思いました。今こうしているときも苦しんでいる人がいると思うと、苦しんでいる人たちに少しでも元気をあげられるように笑っていたいと思いました。

(板書)



生徒が自らの考えを深める手掛かりとなるような板書を工夫する。そのために、ただ、思考の過程や順序を示すだけの形式ではなく、考えの違いや多様性を対比的、構造的に示せるような形式になるように工夫する。

(掲示物)



自分の思いを安心して語り合える学級作りのための手立てとして、校舎内の掲示板や各教室に左のようなポスターを掲示している。すべての学習活動の中で、他者の考えを受容的に聴き合える雰囲気を作っていくことで、他者を大切にすること、さらに、自分が他者から大切にされていることを実感できるようにする。

実施日：12月3日（3校時）	
領 域：特別活動	
取組名：多様な性ってなんだろう（資料 中学校向け「Ally Teacher's Tool Kit（アライ先生キット）」）	
対 象：3年生	実施場所：教室
<p>ア ねらい</p> <p>性の多様性について正しい理解を深め、性的マイノリティをめぐる人権問題を認識するとともに、多様な性を受け入れ、互いの違いを尊重しあう態度を身に付ける。</p>	
<p>イ 指導内容（指導略案）や取組の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ プリント①「性別はなんでしょう」（「Ally Teacher's Tool Kit（アライ先生キット）」より）を用いて、性別による固定的役割分担にとらわれていることに気付く。</li> <li>・ プリント②「多様な性ってなんだろう」（「Ally Teacher's Tool Kit（アライ先生キット）」より）を用いて、性の多様性について理解する。</li> <li>・ 動画「多様な性ってなんだろう」（「Ally Teacher's Tool Kit（アライ先生キット）」より）を視聴して、性的マイノリティを自認する人の気持ちについて考える。</li> <li>・ 性的マイノリティを自認する人が安心して生きていける社会や環境を作っていくために、自分たちができることについて、学級内での意見交流を行い、考えを深める。</li> </ul>	
ウ 連携先：家庭	
<p>エ 連携にむけての取組</p> <p>学校ＨＰや学年通信等で、学習内容や生徒の感想等を発信する。また、作成した指導案については、授業の成果・課題とともに町内の各中学校に発信し、情報の共有を図る。</p>	
<p>オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本授業は、第3学年人権教育年間計画に「ＬＧＢＴ」というテーマで位置づけられており、この学習内容は、校内人権弁論大会や第1学年から行ってきた性の多様性をテーマにした道徳教材の学習と系統的につながっている。</li> <li>・ 授業後に生徒アンケートを実施する。性的マイノリティを自認する人からカミングアウトされたときどのように感じ、行動するか、自校が性的マイノリティを自認する人にとって過ごしやすい環境にあるか、さらに、性的マイノリティを自認する人にとって過ごしやすい学校にするためにはどのような取組が必要か等の質問をし、その結果を分析して、この授業についての客観的な評価を行う。</li> </ul>	
<p>カ 評価の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業中の発言      ・ アンケート      ・ 感想文</li> </ul>	
<p>キ 成果</p> <p>「……くわしい理由はわからないけど、この人たちの気持ちは、なんだか自分の気持ちと似ていて、とても深くつながっているような気がしました。」これは授業後のある生徒の感想である。多様な性があることを他人ごとではなく自分ごととして捉え、自らの性について改めて見つめ直している。生徒の心に深く迫ることができた授業となった。また、授業後のアンケートからも、多くの生徒にとって、性的マイノリティを自認する人の気持ちを理解し、支えていこうという姿勢をもつきっかけとなったことがうかがえた。特に、性的マイノリティを自認する人とそれを支えた人の悩みや葛藤、受容されたときの喜び等を語ったインタビュー動画が、効果的に生徒の心に響いた。</p>	
<p>ク 課題</p> <p>大人以上に、子どもたちは性的マイノリティを自認する人の思いを柔軟に受け止めようとしていくことがわかった。授業後の生徒アンケートの設問3（〔別紙②〕）からも明らかになったように、生徒だけに問題を投げかけるのではなく、まずは、我々大人が学び、学校や社会のあり方を見つめ直し、変えるべきところを変えていかなければならないことを実感した。</p>	

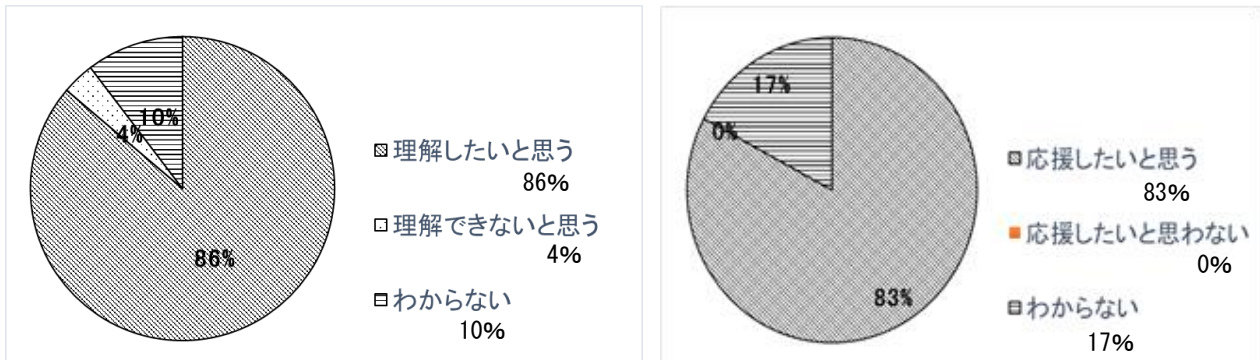
### 第3学年 特別活動 学習指導案

- 1 主 題 多様な性ってなんだろう
- 2 ね ら い 性の多様性について正しい理解を深め、性的マイノリティをめぐる人権問題を認識するとともに、多様な性を受け入れ、互いの違いを尊重しあう態度を身に付ける。
- 3 人権教育の内容 人間関係の活性化3－（2）－ア
- 4 展 開

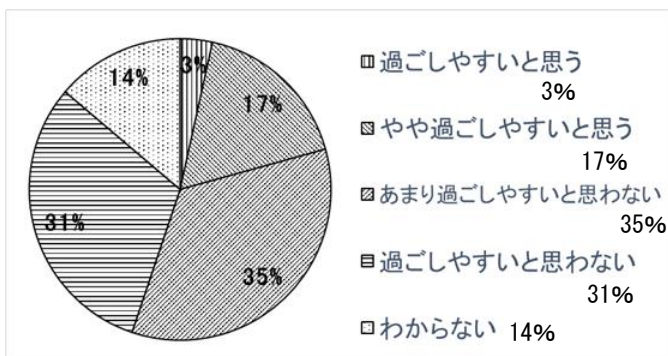
学習活動	主な発問と予想される反応	指導上の留意点
<p>1 自分たちが性別による固定的役割分担にとらわれていることに気付く。(プリント①「性別はなんでしょう」)</p> <p>① 描かれたアライグマの性別を想像する。</p> <p>② アライグマの性別について、そう思った理由を考える</p> <p>2 性の多様性について理解する。(プリント②「多様な性ってなんだろう」)</p> <p>① セクシュアリティの3つの要素を理解する。</p> <p>② さまざまなセクシュアリティがあることを理解する。</p> <p>3 性的マイノリティを自認する人の気持ちを考える。</p> <p>① 動画「多様な性ってなんだろう」を視聴する。</p> <p>② 性的マイノリティを自認する人がカミングアウトできなかった理由を考える。</p> <p>③ 性的マイノリティを自認する人がカミングアウトできた理由を考える。</p> <p>4 授業の振り返りをする。</p>	<p>○ プリントに描かれたアライグマの性別は何だろう。また、そう思った理由も考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ サッカーをしているから男性。</li> <li>・ 花束を持っているから女性。</li> <li>・ ピアノを弾いている女性。</li> <li>・ バスを運転しているから男性。</li> <li>・ どれも性別は決められない。</li> </ul> <p>○ 今までの学習を思い出しながら、3つの「性のあり方」を挙げよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ からだの性。</li> <li>・ こころの性。</li> <li>・ 好きになる性。</li> </ul> <p>○ L G B Tとは何の頭文字を合わせているのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Lはレズビアン。</li> <li>・ Gはゲイ。</li> <li>・ Bはバイセクシュアル。</li> <li>・ Tはトランスジェンダー。</li> </ul> <p>○ 性的マイノリティを自認する人が、なかなかカミングアウトできなかったのはなぜだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 思い受け入れてもらえないかもしれないと不安になったから。</li> <li>・ 今までの関係が変わってしまうかもしれないと思ったから。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>性的マイノリティを自認する人がカミングアウトできたのはなぜだろう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分らしくいたいと思ったから。</li> <li>・ 自分の気持ちにうそをつきながら生きることが嫌になったから。</li> <li>・ 友人、家族の理解や支え、優しさがあったから。</li> </ul> <p>○ 本時の学習を振り返りながら、どのようなセクシュアリティの人でも安心して生活できる社会を考えていく。</p>	<p>○ それぞれのアライグマの性別について、そう思った理由を学級内で交流する中で、多くの生徒が「○○ならば、(男性・女性)」という性別による固定的役割分担にとらわれていることに気付かせる。</p> <p>○ 自由に発言させ、どのような捉え方であっても否定せずに受容する。</p> <p>○ セクシュアリティは、「からだの性」、「こころの性」、「好きになる性」の3つの要素で考えることができたことを確認する。</p> <p>○ L G B T等の性的マイノリティだけではなく、セクシュアルマジョリティも多様な性のうちの1つであることを確認する。</p> <p>○ 生徒が「オカマ」、「ホモ」、「レズ」等の言葉を使ったときは、差別的な言葉であることを伝える。</p> <p>○ 学級内で意見を交流する中で、性的マイノリティを自認する人の気持ちを多面的・多角的に捉えながら、理解を深めさせていく。</p> <p>○ 性的マイノリティを自認する人が安心して生きていくためには、もちろん環境を整えることが大切だが、その大前提として、まず、周りの人々の理解や支えが欠かせないことに気付かせる。</p> <p>○ 授業の振り返りを通じて、まずは身近な社会である学校が、どのようなセクシュアリティの人でも安心して生活できる場になるためにできることを考えさせる。</p>

(授業後の「生徒アンケート」より)

設問1 あなたの身近な人からセクシャルマイノリティであると打ち明けられた場合どう思いますか。



設問2 セクシャルマイノリティの人たちにとって、中町中学校は過ごしやすい学校だと思いますか。



設問3 セクシャルマイノリティの人たちが過ごしやすい学校をつくるためにはどのような取組が必要だと思いますか。

- ☐ スラックス等の男女別関係なく選択できる制服を作る。
- ☐ 男女共用のトイレを設置する。
- ☐ さまざまな場面で、男女で分けられているものを見直す。
- ☐ 多様な性について理解を深めるための授業をする。
- ☐ いじめや差別的な発言を許さない雰囲気、悩みを聞き合える雰囲気を作る。

設問4 授業を振り返って、感じたことや考えたことなどを書きましょう。

- ☐ 今日の授業で私が思ったことは、今の時代、いろいろな考え方をもっている人がいて、でも、冷たい目で見る人もいて、それはおかしいと改めて思いました。LGBTの人たちはたくさん悩んでいるのに、さらに大変な思いをさせるのは間違っていると思いました。私は、LGBTの人たちがカミングアウトしやすい雰囲気を作っていけたらいいなと思いました。
- ☐ 私はこのような体験をしたことがないので、あまりぴんとこなかったです。だけど、セクシャルマイノリティの人たちがカミングアウトするときは、今まで悩んできたということを理解し、その人たちに寄り添ってあげることが大事だと思いました。
- ☐ 話では聞いたことがあるけど、周りにはいないからこそ、差別的な目で見てしまうのではないかなと思います。カミングアウトを受けたら、きっとその人は私を信用してくれていると思うので、「話してくれてありがとう」と言って、受け入れたいと思いました。
- ☐ 私は今まで、セクシャルマイノリティの人たちのことを考えたことはあまり無かったけど、いろいろな人がいて、いろいろな性があるのだなと思った。その人たちはカミングアウトしたくても、嫌がられたりしそうだと思ってなかなかできないのだと思った。でも、本当の自分を知ってほしいという気持ちで勇気を出しているのだと思った。

実施日：12月17日（3校時） 12月18日（6校時）	
領 域：総合的な学習の時間	
取組名：だれもが行きたくなる学校（資料「グループ・ディスカッションをする」『国語1』（光村図書））	
対 象：1年生	実施場所：教室
<p>ア ねらい</p> <p>一人ひとりの人権が大切にされ、だれもが安心して学校生活を送れるようにするために、互いに協力しながらよりよい人間関係を築くことができる学級・学校づくりに、主体的に関わっていこうという態度を育てる。</p>	
<p>イ 指導内容（指導略案）や取組の概要</p> <p>（第1時）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 課題を共有する。 （テーマ「学校に来にくい友だちが登校できるようにするためにはどうすればよいだろうか」）</li> <li>2 課題について自分の意見をまとめる。</li> <li>3 グループ・ディスカッションをする。</li> <li>4 グループの意見をまとめる。</li> </ol> <p>（第2時）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 グループ・ディスカッションの結果を各班から報告する。</li> <li>2 話し合いを通じて、感じたことや考えたことをまとめる。</li> </ol>	
ウ 連携先：家庭	
<p>エ 連携にむけての取組</p> <p>学校HPや学年・学級通信等で、学習内容や生徒の感想等を発信する。特に、不登校生やその保護者について、本人の希望があれば授業で出された生徒の意見や感想等を伝える。</p>	
<p>オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本学習で出た意見を、特別活動（学年集会）で各グループから報告させる等、学級を越えて思いを共有できる場を設定する。さらに、生徒が学校全体で取り組んでいきたいと考えたことについては、生徒総会等の場を利用して情報発信させていく。</li> <li>・ 2学期末に生徒に実施する「道徳アンケート」や「学校評価アンケート」の、他者への思いやり等の人権意識が育まれているかという質問項目について、その結果を分析し、この学習についての客観的な評価を行う。</li> </ul>	
<p>カ 評価の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業中の発言</li> <li>・ ワークシート</li> </ul>	
<p>キ 成果</p> <p>各班のグループ・ディスカッションでは、具体的に学校に来にくい生徒をイメージしながら、その子の立場を思いやったり、気持ちを想像したりしながら、さまざまな意見を交流する様子が見られた。さらに、学級内での意見交流では、それらの意見を一般化していき、すべての生徒にとって行きたいと思える学校の生活環境とは何か、という観点で多面的・多角的に話し合いを進め、考えを共有することができた。これらの成果は、今後、生徒が主体的に学校作りに参画していくための大きなきっかけになるだろう。</p>	
<p>ク 課題</p> <p>この学習は、グループ・ディスカッションをただで終わってはいけない。話し合いで出された意見について、それらを一般化し、具体的な行動として実践していかなければいけない。身近にいる学校に来にくい生徒一人ひとりの人権を大切に思うことからスタートし、すべての生徒にとって過ごしやすい学校とはどのような学校かという視点まで一般化した上で、全校性への提案として情報発信していく。そのような、事後学習までの見通し・広がりをもった取組が必要である。</p>	

## 第1学年 総合的な学習の時間 学習指導案

- 1 主 題 だれもが行きたくなる学校
- 2 ね ら い 一人ひとりの人権が大切にされ、だれもが安心して学校生活を送れるようにするために、互いに協力しながらよりよい人間関係を築くことができる学級・学校づくりに、主体的に関わっていこうという態度を育てる。
- 3 人権教育の内容 人間関係の活性化3－（2）－ア
- 4 展 開
- (第1時)

学習活動	主な発問と予想される反応	指導上の留意点
1 課題を共有する。	<div>課題</div> 「学校に来にくい友だちが登校できるようにするためにはどうすればよいだろうか」	○ この課題は、教員からの提示ではなく、生徒から話し合いたいという声があったことから設定されたということを確認する。
2 課題について自分の意見をまとめる。	○ 課題について、自分の意見をまとめよう。 ・ 関係を作るために、毎日の連絡をこまめにする。 ・ だれもが毎日来たいと思えるように、声を掛け合う。 ・ 学校が楽しくなるような授業や行事を工夫する。	○ 自分が学校に行きにくいと思ったときの気持ちや学校に来にくいクラスメイトの気持ち等を想像しながら書かせる。 ○ 実効性のある意見をまとめさせる。 ○ 国語科の学習を思い出しながら、具体的な根拠を示しながら意見をまとめさせる。
3 グループ・ディスカッションをする。 (30 分間)	○ 課題について、各班でグループ・ディスカッションをしよう。	○ お互いの意見は否定せず、受容的に聴くことを確認する。 ○ 班員の意見を自分の考えと比較しながら聞いたり、流れを踏まえた発言をしたりするように意識させる。
4 グループの意見をまとめる。	○ 班員それぞれの意見のよいところを合わせて、よりよい結論をまとめよう。	○ 次時に学級内で意見交流を行うことを確認する。

(第2時)

学習活動	主な発問と予想される反応	指導上の留意点
1 本授業の課題と前時のグループ・ディスカッションの内容を振り返る。	<div>課題</div> 「学校に来にくい友だちが登校できるようにするためにはどうすればよいだろうか」	○ この授業の話し合いを、形式的な意見交流に終わらせず、不登校生の気持ちに寄り添いながら、実効性のあるものにしていくことが大切だということを確認する。
2 グループ・ディスカッションの結果を各班から報告する。	○ 前時で話し合った結果の報告を聞き合い、意見交流をしよう。	○ 各班の意見の要点をメモさせる。また、発表後に意見や質問がある場合は発言をさせる。
3 話し合いを通じて、感じたことや考えたことをまとめる。	○ 授業を通じて、感じたことや考えたことをまとめよう。	○ 数人の生徒を指名し、感想を発表させる。 ○ 本時の話し合いでまとめた意見は、学年集会等で提案することを確認する。